

春の部 優秀賞十首

とき
季により かな
哀しくも見ゆ 一み

もりおか

盛岡の

く
ごぎ九の裏の うら
きしべ
やなぎ
岸辺の柳

盛岡市 赤坂 昌信

ゆうぐれ
夕暮れの

いわてかたふじ みあ

岩手片富士 見上ぐれば

いちじん かぜ くもわきおこる

一陣の風 雲湧き起る

神奈川県横浜市 嘉嶋 宏子

うららかに

ひのと さと さきほこる

日戸の里に咲き誇る

もり おく

オオヤマザクラ森の奥まで

盛岡市 小林 貴史

ゆき いわてさん うえだまち
雪のこる岩手山のぞむ上田町

こ むか
子は迎えたり
にどめ ごがつ
二度目の五月

大阪府大阪市 佐藤 たかよ

たくぼく うた ひ か れ しやうねん
啄木の歌に惹かれし少年が
おいてたず
老いて尋ぬる
まち
もりおかの町

長崎県大村市 鈴木 言義

かっこう ここちよ きこえき
郭公の心地好き声聴きながら
あい
愛を語りぬ
ごしよこ ほどり
御所湖の畔

青森県青森市 鈴木 操

ふるいもの おかしながらの ふるいいえ
いまもだいじに
つかわれている

岡山県岡山市 高田 悠衣

ゆきがた わし とび た
雪形の鷺が飛び立たむとする朝 あさ

わが少年は しょうねん

中学生になる ちゅうがくせい

宮城県黒川郡富谷町 根本 由紀子

もりおかに

あさづきで はる
浅葱出れば春は来ぬ き

は ことば すみそあえ
母の言葉に酔味噌和えする

盛岡市 堀米 公子

もりおか

盛岡の

でんでんむしのバスやさし

たくぼく

けんじ

いなぞうしの

啄木、賢治、稲造偲ぶ

神奈川県小田原市 渡辺 豊子

【講評】このたびも多くの方々にご応募いただき、ありがとうございました。

お一人お一人の目と心で捉えた盛岡の春は、実にさまざまな発見と感動があり、温かみのある表現で詠われていることを嬉しく思いました。

平成二十七年 六月選

投稿数 百三十六首

選者 松田 久恵 氏